

## 日常生活援助学

[演習] 第3学年 前期 必修 1単位

《担当者名》 朝日まどか asahi-m@hoku-iryo-u.ac.jp 浅野葉子 依田泰知 嶋田俊紀 (特別講師)

## 【概要】

日常生活活動、生活関連活動の工程分析や動作分析を通じて活動の特性や人間の諸機能との関連を学ぶ。さらに、これらの基礎的知識と疾病との関連から作業療法の支援方法とその技術を習得する。また、環境への支援方法として、住環境整備や福祉機器について学ぶ。

## 【学修目標】

## &lt;一般目標&gt;

1. 日常生活活動、生活関連活動の評価と治療の実施のために、身体機能障害の例をもとに実施することができる。
2. 起居動作、移乗、移動、コミュニケーションを支援する福祉機器を安全に操作することができる。
3. 住環境を適切に評価し、各疾患に応じた住環境整備ができる。

## &lt;行動目標&gt;

1. 脳卒中の食事動作の部分練習・全体練習を実施し、それらを列挙することができる。
2. 脳卒中の整容動作の部分練習・全体練習を実施し、それらを列挙することができる。
3. 脳卒中の更衣動作の部分練習・全体練習を実施し、それらを列挙することができる。
4. 脳卒中の排泄動作の部分練習・全体練習を実施し、それらを列挙することができる。
5. 脳卒中の入浴動作の部分練習・全体練習を実施し、それらを列挙することができる。
6. 脳卒中の生活関連活動（調理・掃除・洗濯）の評価と支援方法を列挙し、模擬的に行うことができる。
7. 起居動作、移乗、移動、コミュニケーションの福祉機器を安全に操作するために必要な事項が列挙できる。
8. 住環境を適切に評価し、各疾患に応じた住環境整備を列記することができる。
9. 脳卒中の車の移乗方法について列挙し、模擬的に行うことができる。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	日常生活活動、生活関連活動の評価、支援の振り返り	朝日まどか
2	日常生活活動の支援方法	日常生活活動の支援に関する演習（脳卒中）：基礎練習・部分練習の復習と演習	朝日まどか 浅野葉子
3	日常生活活動の評価と支援方法	日常生活活動の評価と支援に関する演習（リウマチ、股関節疾患）	朝日まどか
4	環境評価と支援方法	疾患特性に合わせた住環境	浅野葉子 朝日まどか
5	環境評価と支援方法	住環境の評価と支援に関する演習	浅野葉子 朝日まどか
6	環境評価と支援方法	福祉機器：移動用リフトに関する演習 特殊寝台、特殊寝台付属品、スライディングボード・グローブ等	朝日まどか
7	日常生活活動の評価と支援方法	日常生活活動の評価と支援に関する演習（脳卒中）：基礎練習・部分練習の立案	朝日まどか 浅野葉子
8	日常生活活動の評価と支援方法	日常生活活動の評価と支援に関する演習（脳卒中）：基礎練習・部分練習の立案	朝日まどか 浅野葉子
9	生活関連活動の評価と支援方法	生活関連活動（掃除）の評価と支援に関する演習（脳卒中）	朝日まどか 浅野葉子
10	生活関連活動の評価と支援方法	生活関連活動（洗濯）の評価と支援に関する演習（脳卒中）	朝日まどか 浅野葉子
11	生活関連活動の評価と支援方法	生活関連活動（調理）の評価と支援に関する演習（脳卒中）	浅野葉子
12	外出支援	生活関連活動（買い物、ATM等）の評価と支援に関する演習	朝日まどか 浅野葉子 依田泰知
13	外出支援	車への移乗方法に関する演習（脳卒中）	朝日まどか 浅野葉子 依田泰知

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
14	外出支援	12回の振りかえり	朝日まどか
15	環境評価と支援方法	福祉機器：環境制御装置、意思伝達装置に関する演習	朝日まどか 嶋田俊紀（特別講師）

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート100%

【教科書】

野村歡 著 「OT・PTのための住環境整備論 第3版」 三輪書店 2021年  
濱口豊太 編 「日常生活活動・社会生活行為学 第2版」 医学書院 2022年  
柴喜崇 他 編 「ADL 第2版（PT・OTビジュアルテキスト）」 羊土社 2021年

【参考書】

吉川ひろみ 著 「作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド」 医学書院 2008年  
伊藤利之 編 「新版日常生活活動（ADL）第2版 - 評価と支援の実際 -」 医歯薬出版 2020年  
山口昇 他 編 「身体機能作業療法学 第4版」 医学書院 2021年

【備考】

レポート課題の結果について振り返りが必要と判断された学生にはフィードバックを行う。

【学修の準備】

各演習項目について予習をしてから実習に臨むこと。  
事前学修と指導後の探索・学習に各々80分を費やすこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）作業療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

朝日まどか（作業療法士）、浅野葉子（作業療法士）、依田泰知（作業療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関や介護老人保健施設、訪問リハビリテーションでの実務経験を活かし、身体障害領域における日常生活活動や生活関連活動の評価方法、また住環境整備や福祉機器等の環境への支援方法も含めた作業療法の支援方法を習得できるよう演習を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している